

赤煉瓦通信

2017
Vol.3

〔第3号〕

～一粒の麦から～

〔巻頭特集〕
西南学院の今、
そして未来。



西南学院百年館(松緑館)
〔2017年3月撮影〕

SCHOOL ORGANIZATION CHART

1万人を超える学生、生徒、児童、園児が通う西南学院。

西南学院は、保育所・幼稚園から大学・大学院までを擁する全国でも数少ない総合学園です。
保育所から大学院まで一貫した理念に基づいて保育、教育をしています。※データは2017年2月現在

西南学院大学

学生数：約8,200人

1949年開設。人文・社会系総合大学です。開学当時からキリスト教に基づく人格教育を実践してきました。また、1971年に他大学に先駆けて国際交流制度を導入し、外国語教育をはじめとする国際教育の充実・向上を図っています。

長年にわたって培われてきた伝統は、社会的に高く評価されており、同窓生たちは、九州の経済界をはじめ、教育、マスコミ、法曹、福祉など多方面で活躍しています。



西南学院高等学校

生徒数：約1,300人

全学年、毎日0限目から6限目まで7時間の授業が行われています(月曜のみ8時間)。多様化する大学入試にも対応できるように、習熟度や進度の違いに配慮して授業を実施しています。

知識の習得はもちろん、物事の良し悪しを判断する知恵と「自分にして欲しいことを隣人に行う」という積極的な生き方を身に付け、それをいかに社会に生かしていくかを学びます。



西南学院中学校

生徒数：約680人

一人ひとりが授かった能力や個性を最大限に伸ばすことができる教育を目指し、中高一貫教育を実施しています。

6年間にわたるゆとりあるカリキュラムと豊かな環境の中で、生徒たちが存分に知識や能力を伸ばすと同時に、聖書に示されている価値観や人生観を学んだり、クラブ活動や国際交流、ボランティア活動等を通して、豊かな人格形成ができるように配慮した教育を実施しています。



西南学院小学校

児童数：約420人

2010年に開校した、西南学院の中で最も新しい学校です。心身ともに成長著しい小学校の課程において、キリスト教の精神に基づいた教育理念のもとに「隣人愛を育む」「知恵を育む」ことを目標として、平和な未来を創る子どもたちの育成に努めています。

環境に配慮して設計された校舎内は最新の教育機器を備えており、教育の質的向上が図られています。



西南学院舞鶴幼稚園

園児数：約170人

福岡市内で最も歴史のあるキリスト教主義の幼稚園です。「心ゆたかでたくましいひかりのこ」を目指して、太陽と土と水と緑に触れながら感性豊かに育ち合う子どもたちを育成しています。一人ひとりの子どもの気持ちをくみ取ることができるよう、各クラスを複数担任で受け持っています。

思いやりの心を培いながら、個性豊かにのびのびと生きていく力を育む保育を実践しています。



西南学院早緑子供の園(保育所)

園児数：約110人

0歳児から6歳児までの園児が長時間生活する場として、家庭的な雰囲気ときめ細やかな育児を心がけています。

「神様に愛され守られて成長していく一人ひとりの子どもを大切に」というキリスト教を礎とした保育理念を柱に、子どもたちが神様の深い愛に包まれている安心感を持ちながら、生きる力の基礎となる心の土台を育んでほしいと願い、保育を進めています。



【“一粒の麦”について】 「一粒の麦」は、イエス・キリストが言われた「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒の麦のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」を語源としたものです。広い世界の中で、西南学院は「一粒の麦」であり、西南学院で学ぶ一人ひとりがまた「一粒の麦」と言えます。「一粒の麦」が持つ可能性を信じ、社会のために尽くしていくこそが創立者の思いであり、それは今もなお大切に受け継がれています。

学校法人 西南学院 <http://www.seinan-gakuin.jp>

西南学院大学・大学院／西南学院中学校・高等学校／西南学院小学校
西南学院舞鶴幼稚園／西南学院早緑子供の園(保育所)

西南学院広報誌

赤煉瓦通信 ～一粒の麦から～

2017年4月19日発行(年1回発行)
学校法人西南学院 総合企画部 広報課
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
TEL.092-823-3248

院長コラム

西南学院のキリスト教教育

「キリスト教教育」と聞くと、「一般的には聖書の原理を学校で教えることだと考えられるでしょう。たしかに、学問的に聖書を学び、理解を深めるということもありま

されている者として他者を尊重し、喜びや悲しみに共感して生きる「新しい人」「平和を作り出す者」となることを目指しています。

大学では、聖書の学問的理解とキリスト教の教理および倫理思想等の概説を通して、キリスト教への知的理解を深めることにより、学生個々人の人格形成に寄与することを意図しています。

早緑子供の園では、「神様に愛され守られて成長していく、一人ひとりの子どもを大切に」というキリスト教を礎とした保育理念を柱に、日々の保育を行っています。

舞鶴幼稚園では、「心ゆたかでたくましいひかりのこ」を目指して二人ひとりの個性を重視し仲間とともに育ち合う子どもたちを育てます。神様に愛されている自分を

以上のように、西南学院のキリスト教教育は、学院で

ようになります。

小学校では、建学の精神を基盤としながら、4つのキリスト教的理念「Peace（平和）」「Life（生命尊重）」「Love（人類愛）」「Liberty（自由）」から導きだされた教育理念と教育目標を掲げ、子どもたちの育成に努めています。

中学校・高等学校では、「二人ひとりにかけがえない存在としての価値が与えられている」ことを知り、神に愛



西南学院理事長・院長
G.W.バークレー

写真：西南学院大学チャペルのパイプオルガン

「巻頭特集」

西南学院の今、そして未来。

幾多の困難を乗り越え、発展を続けている西南学院。創立から100年の時を経て、現在では1万人を超える学生、生徒、児童、園児が通う総合学園となりました。今号の特集では、各学校・園・保育所の現在の状況や取り組みとともに、これからの目標についてお伝えいたします。



西南学院広報誌 赤煉瓦通信

～一粒の麦から～

Vol.3 第3号 2017

西南学院

INDEX

院長コラム	1
[巻頭特集] 西南学院の今、そして未来。	2
西南学院大学 学長	3
西南学院中学校・高等学校 校長	4
西南学院小学校 校長	5
西南学院舞鶴幼稚園 園長	6
西南学院早緑子供の園 園長	7
西南学院ビジョン 2016-2025	8
学院メモリアル	9

学びの現場から	10
[特集2] 西南学院百年館(松緑館)	11
卒業生からのメッセージ	13
SEINAN TOPICS	15
学院のフィールド	19
[HOT NEWS] 中鶴隆彰選手インタビュー	20
西南学院創立100周年記念募金事業	21
西南学院からのお知らせ	22
西南学院概要	裏表紙



西南学院中学校・高等学校
なか ね ひろ あき 校長
中根 広秋 校長



西南学院大学
K.J. シャフナー 学長

「ブリッジ・ビルディング」という考えのもとに。

「アジアの玄関口」と呼ばれる福岡。政令指定都市で5番目の人口を有する福岡市は、国際色豊かな都市です。西南学院大学は、この立地を生かし、キリスト教を教育の基盤とする大学として、世界の人々と共に成長し、共に喜びあえる人の育成を目指しています。

西南学院創立者のC.K.ドージャーは、「頭脳と心と体、この3つを育てなさい」と言いました。社会に出ると、すぐに役立つ能力やスキルよりも創造的思考が求められます。多角的な視点で物事を捉え、考え、コミュニケーションを図っていくことが大切です。この基盤となるのが、創立以来、西南学院に脈々と受け継がれている人格教育です。頭脳や知識だけではない、他者を思いやる心を育てることです。まさに、人に仕え、貢献する精神が大事なのです。

グローバル化と言われて久しいですが、学生たちにはさまざまな国の文化に触れ、学びを深めてほしいと思っています。留学や語学研修、ボランティアなど、国内外を問わず、外の世界に目を向けてほしい。いつもと違う環境に身を置くことで、自分を客観的にみることができるようになります。他者との出会いが、自分を見つめ直す機会となるでしょう。本学は、21カ国68大学と国際交流協定を結んでおり、短期語学研修を含めて年間500人を超える学生が留学しています。留学は、自分と違う

価値観や習慣を学ぶことができるので、自分のことを再認識する絶好の機会です。キリスト教教育とともに国際交流を通じて、人間性を養い、他者を理解し尊重できる、そのような精神的な成長を願っています。

留学だけでなく、本学の学生は、ボランティア活動にも積極的です。東日本大震災後に設立した学生団体に「いと」というグループがあります。彼らは毎年、被災地を訪れ、福岡でも活動を行っています。熊本地震では本学ボランティアセンターが中心となり、学生・教職員あわせて延べ152人が現地で活動しました。ボランティア活動を経験した学生たちの成長は計り知れません。

これからの社会で求められるのは、人々との間に橋を懸ける「ブリッジ・ビルディング」です。多様な文化、語学を積極的に理解する力を持ち、海外と日本の懸け橋となるだけでなく、年配者や他の人の立場を理解して社会に繋がられる、奉仕の精神を持った学生を数多く世の中に送り出したいと考えています。



建学の精神に基づく志の教育と 思春期の課題に応える教育

西南学院中学校・高等学校の教育が目指すものについて二つ申し上げてみたいと思います。

一つは、建学の精神に基づく志の教育です。本校では「命・隣人・平和」をキーワードとして三つの教育目標（「与えられた命を大切にすること」「愛の精神を養い、隣人に仕えること」「賜物を生かし、平和をつくり出すこと」）を掲げ、将来（地の塩・世の光）として、よりよい社会や世界の実現のために祈り行動できる心豊かな人を育成したいと願っています。

そのような教育の芽生えは、生徒たちのこころというときに心を合わせて祈る力と行動力に示されています。たとえば、東日本大震災や熊本地震などで被災された方々のことを覚えて行っている支援活動（街頭募金など）における自主性には目を覚めるものがあります。生徒たちは彼らなりのやり方で隣人としての生き方を実践しているのです。心優しい彼らに未来を託したいと思わずにはいられません。

いま一つ申し上げたいことは、思春期の課題に応える教育についてです。多感なこの時期をどのように過ごすかがその後の人生に大きな影響を与えるからです。この年代における最も重要な発達課題は「思春期の危機」の克服と「精神的な自立」

です。中高生は自立へのプロセスにおいてしばしば危機に遭遇し、その中でこれまでの自己を再構成し、新しい自己を形成していきます。このことをある教育学者が「自分くずしと自分づくり」と呼びましたが、さまざまな形で現われる危機の中で悩み苦しむ生徒たちがいます。そのような（新しい人としての自分づくり）に取り組む生徒たちに寄り添い、見守り、成長を祈りつつ支援することも本校の教育が目指すところです。

したがって、進路に関しても、自分自身としっかり向き合い、将来の生き方について深く考え、その上で、志を持って学習に取り組み、進むべき道を選び取ってほしいと常々伝えています。また、そのような道を切り開くためにも、勉学に励むこととあわせて、キリスト教教育の柱であり、生き方のヒントが散らばめられたチャペル、仲間とともに楽しみ、喜びを分かち合う学校行事や部活動などを大切にしたいと思っています。





西南学院舞鶴幼稚園
横田 哲子 園長

西南学院舞鶴幼稚園は、1913年に創立した福岡市内で最も歴史のあるキリスト教保育の幼稚園です。多くの方のご尽力があり、また神さまに守られてこの長い道のりを歩むことができました。

舞鶴幼稚園では、「心ゆたかであくましい」「ひかりのこ」を育てることを目標に掲げ、独自の教育を行っています。子どもたちの姿を丁寧にとらえ、一人ひとりの良さをしっかりと引き出す保育を展開するために複数担任の教師体制を採っています。その中で幼児期にこそ経験させたいどろんこ遊びやリズム運動、園外保育、お散歩、鬼ごっこなど、子どもたちがわくわく、ドキドキするようなダイナミックな活動を積極的にを行っています。

また、舞鶴幼稚園の大きな特徴は、人間としての基礎作りの重要な幼児期に、家庭と協力しながら子ども中心の保育を続けていることです。舞鶴幼稚園は、給食がなく、制服も送迎バスもありません。保護者にとっては、手のかかる園です。しかし、送迎バスがないからこそ、送り迎えの際に教師と保護者が子どもたちの様子を直接伝えあい、制服がないから、子どもたちがどろんこ

独自の教育で、「ひかりのこ」を育てる。

なつてのびのびと遊ぶことができるのです。給食がないのも同じで、手作りのお弁当から生まれる親子のコミュニケーションを大切にしたい、という願いが込められています。年少から3年間、子どもを通わせた保護者からは、「この3年間で私も成長しました」という言葉が聞かれます。子どもと一緒に親も教師達も育ち合う園です。

舞鶴幼稚園は、目先の教育だけでなく、子どもたちがこれからの10年後も、20年後も生きる教育でありたいと考えて、これまで歩んできました。今後、子どもたちを取り巻く環境に大きな変化があったとしても、舞鶴幼稚園は「子どもたちの育ちのために何が大切か」ということを追求していく保育を実践していきます。そして、子どもたちが神さまに守られているという安心を胸に、のびやかに心も身体も育ってほしいと願っています。



西南学院小学校
宮崎 隆一 校長

人との豊かな関わり合いが隣人愛と知恵を育む。

西南学院小学校の教育理念は、「真理を探究し、平和を創り出す人間の育成」です。教育理念を達成するために、「隣人愛を育むこと」と「知恵を育むこと」という2つの教育目標を掲げています。意欲、達成感、協調性など、テストでは測れない能力を育てていくうえで、大切にしているのが「人との関わり合い」です。授業や行事を通じてさまざまな人との関わり合いは、決して一人では得られない学びであり、それが人を大事に思う心や尊敬の念を育み、隣人愛の精神に繋がっていくと考えています。

私たちは高い知性と理性、それと同時に畏れを知る心を養いたいと思っています。聖書に「主を畏れることは知恵の初め」「汝の若き日に、汝の造り主を覚えよ」という言葉がありますが、自分たちの存在を超えたものを意識する時、人間は謙虚になれるのではないのでしょうか。謙虚に振り返る姿勢や生き方の基盤になるのが聖書です。具体的な基盤があることは、教育するうえで非常に重要なことだと思います。

また、高学年になると教える内容も高度になるので、一人の教員が全教科を十分カバーするのは困難です。本校では宗教・理科・音楽・図画工作は専科の

教員が受け持ち、質の高い授業を行っています。2020年度から正式教科となる英語も、同様に専科とすることを検討中です。一方、母語である日本語の授業も重視し、言語操作能力、抽象的な思考能力としての日本語を鍛えると同時に、自分の考えや意見を伝えられることを目指しています。どんなに流暢に英語が話せても、中身が伴っていないだけでは意味がありません。多少たどたどしくても、しっかりと考えたを持っていることが相手に伝われば、異文化の人とも人間関係が築けるはずですよ。

初等教育で身に付けることは、いつの時代も変わるものではありません。新しい時代の流れも取り入れていく必要がありますが、これまで受け継いできたキリスト教教育の質をさらに高めていくべきだと考えています。子どもたちには本校で学んだことを生かし、よりよい世界になるよう尽力してほしいと願っています。



西南学院ビジョン 2016-2025

〔 建学の精神 〕

“Seinan, Be True to Christ”

西南よ、キリストに忠実なれ

西南学院は、2016年、創立100周年を迎え、西南学院の創立者C.K.ドージャーの遺訓であり、西南学院の建学の精神である“Seinan, Be True to Christ”とそれに基づく学院の使命を実現するために、5つの視点から「西南学院ビジョン 2016-2025」を策定しました。

ビジョンの5つの視点の中心にある建学の精神は、時代背景、社会環境の変化に応じて建学の精神の現代的意味を絶えず問い続ける、という想いを込めたものです。



人間育成

キリスト教精神に
基づいた隣人愛の実践

- 1 平和をつくりだす人間教育
- 2 隣人愛の理解と実践
- 3 奉仕の精神を持って社会を先導する人間の育成

教育研究

確かな保育・教育力と
新たな知と価値の創造

- 1 一人ひとりの個性を引き出す保育・教育力の充実
- 2 総合的な「知」を志向した教育機会の提供
- 3 社会を先導し、社会へ貢献することを目指した研究機能の充実・強化

国際感覚

異文化を受容し、
行動できる国際性の修得

- 1 グローバル人材の育成
- 2 異文化理解と外国語教育の充実
- 3 キャンパスの国際化の推進

地域貢献

進化する福岡とともに歩む
学院としての自覚と協働

- 1 地域社会との協働
- 2 国際交流都市福岡への貢献
- 3 地域に開かれ、地域に貢献する空間づくり

経営基盤

持続的な変革と発展を
支える柔軟な組織の構築

- 1 経営体制の充実・強化
- 2 健全な財務基盤の確立
- 3 社会的責任の遂行



西南学院早緑子供の園

G.W.バークレー 園長

幼少期から自然と身に付く相手を思いやる心。

西南学院早緑子供の園では、「神様に愛され守られて成長していく一人ひとりの子どもを大切に」というキリスト教を礎とした保育理念を柱に、日々の保育を行っています。幼い園児にも分かりやすいように、毎日お祈りをして、キリスト教の精神に基づき「一緒にやりましょう」「仲良くしましょう」「ケンカの時は話し合って解決しましょう」ということを教えています。

日々の保育において大切にしているのは「遊び」です。子どもたちは自分で遊びたいこと、遊びたいものを選び、遊ぶ中で成長します。身体の発達、言葉、考える力、そして人と関わる方法などは、遊びを通して身に付くものだと考えており、そのため本園では0歳児から年長児まで子どもたちが自分の遊びにしっかり取り組むことができるように配慮した保育を行っています。

また、本園では、保育士のことを「先生」と呼ばず、ファーストネームで呼んでいます。子どもたちがリラックスできるように、そして、子どもたちと保育士が「人と人として、互いを尊重し関わりあうこと」を大切に考えているからです。園は家庭の延長という意識で保育をしているので、いつも明るくアットホームな雰囲気です。保育士は子どもにとって園での「おかあ

さん」として、奉仕の精神を持って、できる限り家庭を支える姿勢で取り組んでいます。保護者との関係もよく、家庭での困りごとの相談を受ける体制も整備していますが、今後も本園の保育の理念や方針についての理解を得ながら、保護者とはさらなる連携強化を図っていきたいと考えています。

自分のことだけでなく、相手のことも考えて人生を送ってほしいというのが、西南学院全体に共通する精神であり、その精神は本園の保育にも息づいています。友達が悩んでいる時は共に悩み、喜んでいる時に共に喜び、泣いている時は共に泣く。そんな風にお互い支え合える精神を持った子どもに成長してもらいたいです。幼少期に相手を思いやる気持ちを育むことは、将来、社会を生きていくうえで欠かせない基盤となるでしょう。これまで同様これか

らも、園児たちの健やかな成長のために、一人ひとりを大切にする保育を実践していきたいと思っています。





西南学院大学
教育・研究推進機構長(副学長)

中馬 正博

学びの現場から①

教育・研究推進機構

西南学院大学

教育・研究推進機構は、教育・研究推進課を所管部署として、2006年に設置されました。本学の教育と研究の質を向上させるため、具体的な企画・立案を学部・大学院・部局に募り、そのプログラムが円滑に運用されるよう支援する活動を行っています。

学部・大学院やゼミを対象とする教育支援制度、科学研究費獲得を目指す積極的な研究者を支援する研究支援制度の整備拡充を図りつつ、今日に至っています。教育支援

教育・研究推進機構の取り組みなど、詳しい内容については、西南学院大学のホームページをご覧ください。

制度を通じて支援してきたプログラムとしては、海外インターンシップ・ボランティア、産学連携・地域連携、SAを活用した学修支援などが挙げられます。また、研究支援制度を通じて得られた成果としては、科学研究への応募率・採択率の向上、研究図書の発行などがあります。

本学の中長期計画に掲げられているアクションプランの中で、機構が実施主体となっている項目のキーワードを拾ってみると、サービスラーニング、3つのポリシー、入学前教育、初年次教育、アカデミックスキル、高大接続、アクティブラーニング、TA・SA、FD、ルーブリック、学修ポートフォリオ、教育の質保証、グローバルリーダー・プログラム、大学改革フォーラム、外部資金獲得、研究倫理、公的研究費の適正管理：と、多岐にわたっています。

機構はこのように広範な課題に応えるため、あくまでも裏方として、さまざまな教育・研究の試みを支援しており、今後またそうあるべきでしょう。機構が行っているさまざまな支援の中から、本学独自の教育支援サービス、研究支援サービスとして発展し、通常業務化するものが表れることを期待したいと思います。



西南学院小学校・管理栄養士

村田 りつ子

学びの現場から②

食育

西南学院小学校

本校の食育は、特色の一つとして「食への感謝」があります。食べものの命をいただいていること、多くの方々の手によって作られていることに感謝し、食事をいただくということです。ランチの時間には最初に全員でお祈りをし、食事をいただきます。また食事を残さず食べるということでも感謝の気持ちを表しています。苦手な食べものも、食べられる量まで減らし、最後まで責任を持って食べるようにしています。



安心、安全な食材を基本としたバラエティー豊かなランチメニュー。衛生面にも十分に配慮されている。

発達段階の子どもたちにとって、食事は単に食欲を満たすだけのものではありません。食事は心理面と深く関係しています。例えば、苦手な食材を克服することには「意欲」が求められます。どんなことにも積極的に前向きに取り組む姿勢が必要になるのです。これは、食事以外の学校生活にも繋がっており、学習面や生活面と密接に関わっています。毎日の食事を繰り返すこと自体が「生きた教材」となり子どもを成長させています。食に携わる者として、児童の成長を支える者として、この考えはとても重要だと思っています。

少子化や家庭環境の変化に伴い、子どもたちを取り巻く食問題は多様化しています。大切なことは、子どもたちの未来のためにより良い環境づくりを行うことであり、学校と「家庭が同じ意識を持つことだと思っています。これまで年に一度、保護者向けに「親のための子ども講座」を行ってきましたが、今後はまた違ったかたちで保護者の方々とコミュニケーションを深めていきたいと思っています。堅実な調理スタッフとともにこれからも努力し、心のこもった「西南ランチ」でありたいです。

学 GAKUIN MEMORIAL 院 メモリアル



C・K・ドージャーの日記(1928年)

西南学院には、創立者C・K・ドージャーが1928年に書いた日記が保存されています。ドージャーが49歳の時のものです。創立から12年経ったこの年、ドージャーは院長職にありましたが、日曜日(安息日)にスポーツの試合を行うことは是非を巡って、ドージャーと学生たちが対立した、いわゆる日曜日問題で学院が大きく揺れた年でもありました。

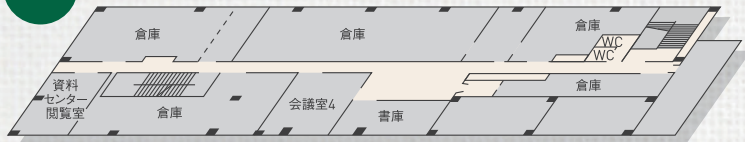
日記は、毎日欠かさず書かれており、日々の出来事が淡々と記されています。多くの日記は、「午前6時頃に起床。髭を剃り、着替え、祈り、朝食をとった。」と日課の記述から始まっています。毎日、西南学院についての具体的な記述があり、学院に関係しない日はありません。西南学院をこよなく愛し、神にあくまでも忠実であらうとしたドージャーの生きざまが、この二冊の日記に凝縮されています。

日記の最後には、「(1928年は)相対的に良い年であったが、学生たちが全てにおいて自由を求めたことは高等学部への悩みの種であった。(中略)職員は皆残ってくれて、たくさん恵みに感謝している。(中略)私たちには感謝すべきことがすべて揃っている」と1年間を振り返っています。

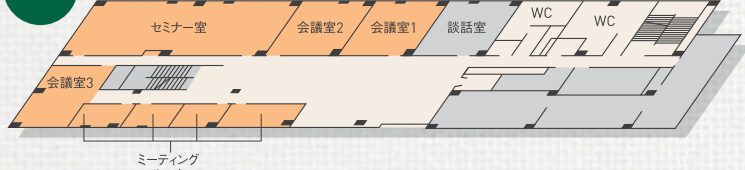
「C・K・ドージャーの日記」は、西南学院に残された数少ないドージャー直筆資料の中でも貴重なものです。(西南学院史資料センター所蔵)

※写真は、大学博物館(ドージャー記念館)に展示されているC.K.ドージャーの日記(複製)

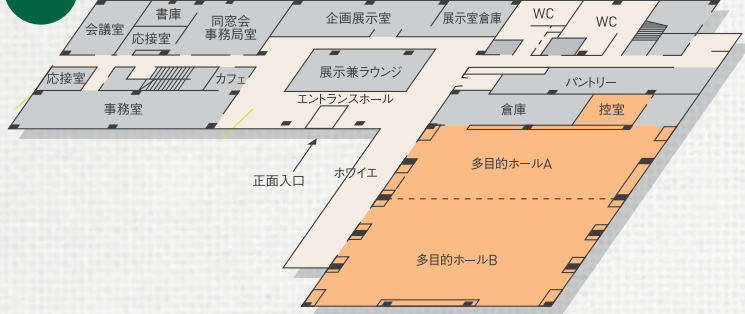
3F



2F



1F



色の部分が皆さまにご利用いただける共用設備です。

1F

エントランスホール(常設展示室兼ラウンジ)



西南学院に関する資料が常設展示されています。奥には企画展示室があり、西南学院の歴史を今に伝えます。

多目的ホール



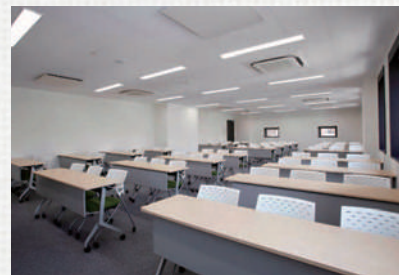
パーテーションで2部屋に区切ることができ、人数に応じて使い分けが可能です。

2F

授業、会議や打ち合わせ等にお使いいただける、会議室、セミナー室、ミーティングルームがあります。



会議室



セミナー室



ミーティングルーム

西南学院史資料センター



西南学院の歴史資料をはじめ、バプテスト教会関係の歴史資料も保管しています。また、展示室では西南学院の歴史資料の展示を行っています。

パン屋さん「La Piccola cento」



●営業時間:午前10時～午後4時(月曜日～土曜日) ●店休日:日・祝日

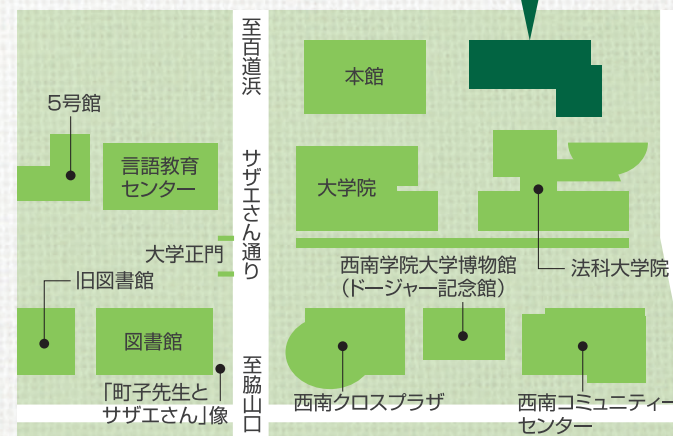
大濠公園近くの人気パン屋さん「La Brioche」によるカフェが1階にオープンしました。限定メニューやコーヒーをご用意しておりますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

[お問い合わせ] 西南学院 校友課 TEL:092-707-0452 FAX:092-707-0453 E-mail:koyu@seinan-gu.ac.jp

西南学院百年館(松緑館)



西南学院百年館(松緑館)



さまざまな方が自由に集い交流する拠点として、大いにご活用ください。

開館時間

●午前9時～午後7時。ただし、以下の共用設備について、
学長が許可した場合は、午後9時まで
※共用設備:多目的ホール、ミーティングルーム、2階会議室、セミナー室

休館日

●日曜日 ●キリスト降誕祭(12月25日)
●年末年始の休日(12月28日～1月5日)
※ただし、学長が認めたときは、臨時に開館又は休館する場合があります。

申込期間

●西南学院の教職員および同窓会
…使用日の6か月前～10日前まで
●西南学院の生徒・学生等
…使用日の3か月前～10日前まで
●その他…使用日の1か月前～10日前まで

教育・研究の場、交流の場、そして
西南学院の建学の精神を伝承する場として、
2016年10月オープン。
西南学院百年館(松緑館)は、西南学院の創立100周年を記念し、本学の教育・研究活動のみならず、同窓生や地域の皆さまの交流の場として、東キャンパスに2016年10月22日(土)にオープンいたしました。館内には、学会、講演会や懇親会などに利用できる多目的ホール、授業、会議や打ち合わせ等に利用できるセミナー室、会議室、ミーティングルームがあります。
また、1階には、建学の精神を未来へ伝承する西南学院史資料センター展示室があり、多目的ホール前には西南学院創立100周年記念募金事業の寄付者銘板を設置しています。

MESSAGE FROM THE GRADUATES

卒業生からのメッセージ

卒園から半世紀を経ても、
すばらしい思い出は心に残っている。

野村クリニック 院長

のむら しょういちろう
野村 正一郎さん

1966年 西南学院早緑子供の園卒園

間もなく創立70周年を迎える早緑子供
の園に、心からお祝い申し上げます。

私が早緑子供の園に入園させていた
だいたのは、母が園の評判を耳にした
ことがきっかけと聞いております。入
園は私が0歳児の時で、それから小学
校に入学するまでの約6年間、早緑子
供の園で過ごしました。卒園してから
約50年、およそ半世紀の歳月が流れま
したが、クリスマスの降誕劇で博士役
を演じたことを今でもよく覚えていま
す。私はどちらかというと、元氣すぎ
る子だったようです。お昼寝の時間

になかなか寝ずに怒られ、外に出され
：といった具合です。他にも叱られた
思い出はたくさんありますが、断言で
きるのは、私にとって早緑子供の園は
とても居心地の良い、すばらしい場所
だったということです。

また、私には子どもが3人いるの
ですが、幼少の頃の良い思い出があっ
たので、迷わず3人とも早緑子供の
園へ通わせました。園への送り迎えは
私の仕事で、長男が入園してから通
算9年間、頑張りました。当時ではま
だ珍しい、いわゆる「イクメン」でし
たね（笑）。園で母さん方と情報交換
したり、相談に乗ったり、教えていた
だいたりしていましたが、今ではこれ
もまた良い思い出となっています。



【プロフィール】1960年生まれ。宮崎医科大学（現：宮崎大学医学部）卒業後、
九州大学病院勤務などを経て、1995年に野村クリニックを開業。現在に至る。

◎野村クリニックは、带状疱疹ヘルペスおよびペインクリニックの他、甲状腺機能低下症、
糖尿病、高血圧症の治療薬の処方も行っています。（福岡市中央区警固1-6-20）

幼い頃に受けた教育は、その後の
人生に大きな影響を与えると私は
思っています。私は在園していた頃、
「子どもたちは仲良しなのに、なぜ
大人になったら争い合うのだろう」と
思っていました。その感情は、今で
も私の心の中にあります。園で毎
日、神さまにお祈りするなかで、そ
のように感じたのかもしれませんが。
私は現在、医者として多くの患者さ
んと接しています。毎日の診察で心掛
けているのは、患者さんの声に耳を傾
け、じっくり会話をすることです。
「人との出会いを大切にし、何事も
慌てることなく、よく考えて行動す
る」。これは、早緑で過ごした幼少期を
土台に作られた、私が人生を生きるう
えで最も大切にしていることです。こ
のことを、西南学院で学ぶ皆さんにメッ
セージとしてお伝えしたいと思います。



西南学院は、チャレンジできる
自由な校風であふれている。

株式会社フジテレビジョン
編成局アナウンス室アナウンサー
みやじ まなみ
宮司 愛海さん

2010年 西南学院高等学校卒業

私が西南学院高等学校への入学を決め
たのは、高校に通っていた知人からって

も自由な校風だ」と聞いていたからです。
それと、制服がかわいいと思ったのも大
きなポイントでした（笑）。入学時は
チャペルの時間があることに驚きまし
た。それまでキリスト教に触れたことは
なかったのですが、チャペルで学ぶこと
は多かったです。チャペルの時間はとも
神聖で、心が落ち着きました。みんなが歌
う讃美歌も好きで、今でも『いつくしみ深
き』などを覚えています。キリスト教教育
の『隣人を愛する』という考え方にも影響

を受けました。心に余裕が無い時にはこ
の言葉を思い出し、自分だけでなく他の
方も大変な思いをしていると考え、気持
ちを落ち着かせています。このような思
いを抱けるのは、西南学院の教育による
ものと感じています。

西南学院ではさまざまな経験がで
き、のびのびと3年間を過ごしました。
中でも一番の思い出は、2年生の時に文
化祭で行った劇です。担任だった藤原
静郎先生はどちらかというと怖いイ
メージの先生でしたが、せっかくなら先
生を泣かせるぐらいの劇をしようと、み
んなで脚本から衣装作りまで力を合わ
せて取り組みました。喧嘩しつつも、一
致団結した劇でした。最後まで先生
が泣くことはなかったのですが、とても



【プロフィール】1991年生まれ。早稲田大学文化構想学部卒業
後、2015年に株式会社フジテレビジョンにアナウンサーとして入
社。「めざましテレビ」をはじめ、多数の番組に出演中。

私たちの頑張りを喜んでくださったこ
と、仲間との絆が深まったことをよく
覚えています。先生、そして高校時代を
一緒に過ごした仲間、今でも自分を支
えてくれる大切な存在です。
西南学院で学ぶ皆さんに伝えたいこ
とは、学校の自由な雰囲気の中で、好奇
心を持って新しいことにどんどんチャレ
ンジしてほしいということです。私はア
ナウンサーになって3年目になりました
が、これからは自分という人間を磨き
ながら、少しでも人のため、社会のため
に役に立てるようにチャレンジし続け
たいと思います。私のモットーは、めげ
ない、ということです。これまで直面し
てきた困難も、めげない精神で乗り越
えられたので、今後もこの姿勢を持ち続
けたいです。皆さんの目標達成のための
チャレンジを、西南学院で学んだ卒業生
の一人として心から応援しています。



西南学院大学

「町子先生とサザエさん」像を
新図書館前の公開空地に設置、
福岡市へ寄贈しました。

1月28日、サザエさん通りに面した新図書館前の公開空地に、漫画「サザエさん」に登場する主人公のサザエさんと作者の故長谷川町子さんの銅像を設置し、福岡市へ寄贈しました。

「町子先生とサザエさん」と題した銅像は、西南学院創立100周年とサザエさん生誕70年を記念し、長谷川町子美術館の協力を得て設置したもので、サザエさん作者の故長谷川町子さんが百道の海岸でサザエさんの構想を練ったこと、また、漫画「サザエさん」うちあけ話の「コマに西南学院が登場すること」などから実現しました。

前日27日には、西南コミュニティセンターにて「サザエさんシンポジウム」福岡と西南学院とサザエさん」を開催し、長谷川町子美術館館長の川口淳二氏が、故長谷川町子さんとの思い出を交えつつ、サザエさん誕生秘話やサザエさんと福岡市早良区、西南学院との縁などについて講演し、約150人が熱心に耳を傾けました。

故長谷川町子さんの銅像は全国初です。銅像が設置された新図書館前の公開空地は、地域の皆さんの憩いの場として、開放しています。



本学卒業の直木賞作家 葉室麟氏・
東山彰良氏を招いて、
西南学院大学読書教養講座 in 東京を
開催しました。

11月23日、東京都千代田区のサピアホールにて「西南学院大学読書教養講座 in 東京」の公開授業を行い、当日は抽選で選ばれた約300人が来場しました。

読書教養講座は、活字離れが進む今の時代に読書好きの学生を育てようと、2005年から読売新聞社内に事務局を置く活字文化推進会議主催で、西南学院大学において開催しています。今回の「西南学院大学読書教養講座 in 東京」は西南学院創立100周年を記念して開催されたものです。

本学卒業の直木賞作家葉室麟さん（文学部外国語学科フランス語専攻卒業）と東山彰良さん（西南学院高等学校卒業・西南学院大学経済学部卒業・西南学院大学大学院経済学研究科修了）を講師にお招きし、「挫折と失敗、創作の源流」をテーマに対談していただきました。同じく本学出身の日本テレビアナウンサー尾崎里紗さんの司会進行のもと、講師のお二人の直木賞受賞をめぐるエピソードから作家になった経緯、そして、大学時代の思い出に至るまで終始話が弾んでいました。福岡在住で共通点も多いお二人は、息の合った軽快なトークで満員の会場を沸かせていました。



写真提供：読売新聞社

西南学院高等学校

福岡ソフトバンクホークス
デニス・サファテ選手、来校！
チャペルにて講演を行いました。

9月21日、チャペルにて、ペナントレース終盤でお忙しい中、福岡ソフトバンクホークスのデニス・サファテ選手が、高校2年生を対象に講演を行いました。講演では、サファテ選手自身の人生を振り返りつつ、生徒への熱いメッセージを送ってくれました。

メジャーリーグに昇格し、若くして地位やお金を手に入れて全てが幸せだと感じていたこと。2009年にけがをし、思うように投げられない辛い生活の中で、短絡的な快楽を求めたけれど、心は満たされなかったこと。環境を変えるために来日したものの、変わらず享楽主義的な生活を送っていた時に、家に置いてあった聖書をふと読み、お金や名誉よりもっと大切なものがあることに気づき、人生が変わったことについて熱く語ってくれました。

また、福岡ソフトバンクホークスに入団し、ジェイソン・スタングリッジ選手（現千葉ロッテマリーンズ）と出会えたことが、神様からの素晴らしい贈り物だったと言います。敬虔なクリスチャンであるスタングリッジ選手の誘いを受けて、2人で学校訪問をするようになったそうです。その活動を通して、「人は人種、性別にかかわらず、互いに愛し合うために神様につくられた」ことを学んだと語ってくれました。

講演後には、多くの生徒たちから握手を求められたサファテ選手が、一人ひとりにこやかに応対している姿が印象的でした。



手をつないで「H・C・C」を実施しました。

11月21日、西南学院創立100周年を記念して、生徒会特別企画「H・C・C（Handshake Challenge Ceremony）」を行いました。「Handshake Challenge」とは、腕を交差して両隣の人と手をつなぎ、どれだけ多くの人が連なって握手できるか挑戦するものです。今回は、100周年を記念して、全員で手をつないで、「100」の数字をかたどることにしました。

今回の企画は、生徒会が、西南学院創立100周年という節目を迎えた年に、「西南学院高等学校全体のまとまり」をより強固にし、生徒たちが、団結することの嬉しさ、心地良さを実感することを願って、長い時間をかけて配置図や方法などについて検討を重ね、実施に至りました。

当日は、事前に作成した全学年31クラスによる「校歌リレームービー」をスクリーンで上映し、盛り上がった雰囲気の中でいよいよ「H・C・C」が行われました。生徒・教職員総勢1300人が手をつないで並び、「100」の人文字を完成させました。

全景を収めた写真で作成したクリアファイルは、後日、記念品として、生徒に配布されました。100周年という特別な年にふさわしい、良い思い出となりました。



西南学院中学校

大阪の劇団KIOを招いて
観劇会を開きました。

12月20日、本校チャペルにて、大阪の劇団KIOによる劇「ソウの休日（Elephant Gear's Holiday）」の鑑賞会を行いました。本校では2年に1度、このような観劇会を行っています。

動物園で育った一匹のゾウ「ギア」を通して、「本当の自由とは何なのか」「自分にとって何が一番良い選択なのか」を考えさせられる物語でした。

生徒たちからは、「本当の自由とは何なのか。人間だけではない、動物に自由はないのか。途中から劇の内容が頭に入らなくなるくらい、深く考えさせられました」「劇のはじめの方にあった「見えてるようで見えない」の歌詞が頭に残っている」「私たちは『自由、自由』と言いつつ、本当に自由を理解できていないのかもしれない」といったさまざまな感想が寄せられました。

思春期に入り、「自分とは何か」に悩み始める中学生にとって、自問し、自分の頭で考える良いきっかけになりました。



楽しみながら知識を得る
「ブレインオリムピック」を開催しました。

生徒会執行部が中心となり、2017年3月中旬に初めて「ブレインオリムピック」を開催しました。内容は勉強に関するクイズに生徒が答え、正解を点数化して学年ごとに得点を競うというもので、いわば、生徒全員参加型の勉強版クイズマツチです。当日は、午前中に学年ごとに予選を行い、午後には全校生徒がチャペルに集まる中、決勝戦を行いました。

問題は英語、数学、国語、社会、理科の各教科の問題の他、「キリンの睡眠時間は？」、「血を吸う蚊は雄と雌のどっち？」などの問題もあり、学力だけではなく、雑学をどれだけ知っているか試されるユニークな問題もありました。さらには、ヒット曲のイントロ当て早押しクイズなどもあり、全校生徒が集まったチャペルは大いに盛り上がりました。

「ブレインオリムピック」は、積極的に勉強するきっかけ作りを目的として開催されています。1年の締めくくりに、みんなで力を合わせて難問に挑戦した1日は、クラスの絆を深め、良い思い出作りになったと思います。協力し合い、楽しみながら学ぶことは、日頃体験できない貴重な経験です。来年以降も開催したいと考えています。



西南学院小学校

秋のミッションウィークが開催されました。

西南学院小学校では、春と秋の年2回、ミッションウィークを行っています。ミッションウィークは、講師の方をお招きして神様のお話をしていただくチャペルの時間をもつ期間です。秋のミッションウィークでは、福岡ベタニヤ村教会の協力牧師である水野英尚先生・障がいを持った方の支援施設である地域生活ケアセンター「小さなたね」の設立に携わっておられるから「はだかのいのち」という題でお話をいただきました。

コリント人への第一の手紙12章22節には、「体の中でもかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。」という箇所があります。水野先生から「一体なぜそのようなことが言えるのでしょうか。」と問われた子どもたちは、皆必死になってこの御言葉の意味を考えました。その翌日、水野先生は、「人間は成長していくにつれ力(体力や学力、社会的地位)をつけていくため、それに覆われた命は見えにくくなっていく。一方、一番社会的に弱いとされているような障がいを持った方やお年寄り、赤ちゃんは何も覆われていない「はだかのいのち」なのだ。」とお話されました。

「はだかのいのち」は、いのちの大切さや本当の価値を忘れないようにさせてくれる存在であり、だから大切なのだと子どもたちは気付くことができたようでした。力にばかり目がいつてしまい、大切なものを見失いがちなこの世の中です。神様が平等に与えてくださった「いのち」そのものを本当に大切にできているのか、問い続けていく子どもに育ってほしいと切に願っています。



留学生交流会を開催しました。

1月24日、「留学生交流会」を開催し、2年生74人が西南学院大学の留学生と交流しました。

留学生交流会は、他国の文化に触れることと英語学習の楽しさに触れることを目的に、西南学院大学に在籍する留学生と交流するもので、毎年、1年生から3年生が交流しています。

交流会では、グループでの自己紹介、留学生に向けた質問をはじめ、短い会話や留学生による各国の挨拶(こんにちは)紹介などの活動を行います。児童にとつて交流会は、実際に英語でコミュニケーションをすることによってその楽しさを体験し、また、さまざまな国からの留学生と触れ合うことで他国の文化について知ることができる貴重な機会となっています。どの児童もコミュニケーション活動に参加することができ、ランチの時間など授業時間以外においても留学生と積極的に関わり合うなど、異文化に対して心を開く児童の姿が見られました。

交流会に参加した児童は、「わたしは、留学生に『イチゴが好きですか?』と聞くと、『好きです』と答えてくれました。ランチブレイクは、アニーさんを誘って『おにぎり』をしました。とても楽しかったです。また留学生に来てほしいです。そして、留学生の皆さんに日本のおいしいイチゴをたくさん食べてほしいです」と、感想を寄せてくれました。



西南学院舞鶴幼稚園

お父さんお母さんと一緒に「まいづるまつり」を楽しみました。

9月上旬、園庭と園舎にて、「まいづるまつり」を開催しました。祭りは母の会・父親参加の会、そして幼稚園の三者共催の行事であり、大人たちがみんなで力を出し合っって楽しい祭りを作りあげます。当日の朝に準備を行い、夕方から開始します。

まず、園庭に集まって、当仁太鼓の素晴らしい太鼓演奏を観ます。その後、年長光組が自分たちで作ったおみこしを担いで威勢よく園庭を回り、祭りを盛り上げます。そしてその後は各コーナールの時間が始まります。ヨーヨー釣りやおもちゃなどの「夜店」コーナー、用意された材料を使って遊べるものを作る「作ってあそぼう」コーナー、布くて楽しい「お化け屋敷」コーナーなどが園内の至る所で開かれます。

中でも「お化け屋敷」コーナーは小学生にも大人気のコーナーです。お父さんお母さんたちが頑張ったお化け屋敷は、大人でも怖いほどの本格派です。中からは叫び声、泣き声が響き、出てきた子はホッとしてどこか誇らしげな顔をしています。

そして、最後は盛大な花火の時間です。たくさん打ち上げ花火、仕掛け花火、そして火花が横一列で一斉に流れ落ちるナイアガラの滝など、お父さんたちが頑張った魅せてくれます。祭りが終わると秋の気配が強くなってくる区切りとなる行事でもあります。



年中の月組が幼稚園でお泊まりをしました。

10月下旬、年中の月組のみんなで一緒に幼稚園に泊まる、お泊まり保育がありました。

お泊まり保育が行われた一週間ほど前、「幼稚園に泊まる」とみんなで決めました。それから当日まで、楽しみにワクワクしている子、ちよつと不安でドキドキしている子、さまざまな姿がありました。幼稚園全部を自分たちだけで使えるという特別感がありますが、やはりまだ4・5歳の子どもたちです。当日、少し涙する子もいました。

登園して大濠公園へと散歩に行きました。お弁当を食べて帰ってきた時には年長と年少の子はおらず、幼稚園全部を使って遊べます。普段年長しか使えない大きいスコップを使ったり、シャボン玉やダイナミックな絵の具あそびをしたり、一部屋丸ごと積み木の部屋にしたり、大量の布団の山にジャンプしたり、片付けまでたっぷりの時間を過ごしました。その楽しさに、不安だった子の涙もいつの間にか引つ込みます。夕方からはみんなで作ったカレーを食べて、暗くなった懐中電灯を持って夜の探検です。舞鶴劇場では、先生たちの劇を見て大笑いしました。ニコニコのまま布団に入り、いつのまにか寝てしまいました。

お泊まり保育をしつかり満喫して、ちよつぷり自信もついた月組の子どもたちでした。



西南学院早緑子供の園

わらべうたは、生きる力を育みます。

わらべうたは、母語の響きと単調で心地よく繰り返される旋律で構成された、民族伝承のものです。

早緑子供の園では、日々の保育の中のさまざまな場面でわらべうたを歌い、遊びます。乳児クラスの幼い子どもは、保育者と1対1で身体を揺らしたり膝に乗ったりして、鼓動(リズム)を感じます。わらべうたを歌うと、泣いていた赤ちゃんも泣き止み、保育室全体が落ち着いた雰囲気になります。幼児クラスになると、集団でのわらべうた遊びも楽しめます。隣にある舞鶴幼稚園との交流保育では、年長児同士が集まり、大人数でのわらべうたを、初めてでもすぐに歌い、遊ぶことができ、ホールいっぱい大きな輪が広がりました。わらべうたの音の響きが、子ども同士の間わりも助けてくれたようです。

現代の子どもたちは、さまざまな大きく強い刺激の中で生活をしています。「声」という神様に与えられた最も美しい楽器だけで奏でられるわらべうたは、そんな子ども達の発達に多面的に働きかけ、友だちや保育者の声を聴き、自分も歌い、顔を見合わせ身体に触れ合うことで、人の温かさを感じ、情緒が動き、豊かな感性を育むものと信じています。



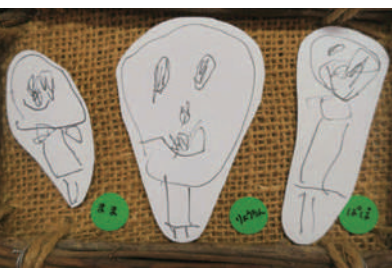
子どもたちの「なぜ?」に答える取り組みを実践しています。

子どもの心は「なぜ?」に満ちています。日々の生活の中で出会うさまざまな「人物・場・事柄」に、興味を持って働きかけながら新しい情報を得て、社会を知り、自分を知り、たくさん「なぜ?」が一人ひとりの力となっていくます。そんな子どもたちの興味・関心に沿ったテーマを決めて、クラスで「環境」を知る活動に取り組んでいます。

昨夏はオリンピックを機に「世界の国々」に注目してみました。子どもたちは諸外国の名前、人々、文化に触れる機会はあるものの、「国」「世界」などの概念についての理解は曖昧です。そこで各家庭にご協力いただき、さまざまな国の物・本、貨幣、民芸品、生活用品などを集め、国旗の絵を描き、その国の挨拶をして遊びました。丁度その頃、アメリカからお客様が遊びに来られ、緊張しながらも一緒に遊び、身振り手振りで会話をする貴重な体験ができました。

冬には「家族」をテーマに取り上げました。自分が生活する一番小さくて身近な社会の単位である「家族」に注目することで、大きな社会とのつながりや、自分と社会との関わりにつづき、興味を持ち感謝する気持ちを抱きつけにしたいという願いを込めての取り組みです。

子どもを取り巻く環境は多岐にわたっているのですが、テーマも「動物」「交通」「身体」「季節」「素材」などさまざまです。これらの活動は知識を教え込むものではありません。子どもたちが遊びとして経験する中で知的好奇心が刺激され、自ら知識を獲得し、さらに探求していく意欲を育てたいと考えています。



HOT NEWS



【プロフィール】2009年、西南学院高等学校卒業。高校時代は高校日本代表に選ばれる。2013年、早稲田大学卒業後、ラグビートップのサントリー サンゴリアスに加入。2014年8月に公式戦初出場を果たす。2017年、トップリーグで個人賞を初めて3冠で獲得。その後、スーパーラグビー「ヒト・コミュニケーションズ サンウルブズ」のメンバーに選ばれる。

まずは MVP 受賞おめでとうございます。
 ありがとうございます。MVP に選ばれたのは、シーズンが終わった後の授賞式で初めて知りました。トライ王とベストフイフティーンに選ばれているのは知っていましたが、まさか自分が MVP に選ばれるとは夢にも思っていませんでした。正直、「なんで自分が MVP なの？」という感じでしたね。本当に身に余る賞をいただき、光栄に思っています。

日本ラグビーの最高峰リーグであるトップリーグ 2016-2017 シーズンにおいて、西南学院中学校・高等学校出身の中鶴隆彰選手が年間最優秀選手 (MVP) に選ばれました。
 しかも、トライ王 (17 トライ)、ベストフイフティーンも受賞。初の個人賞を MVP と合わせて見事 3 冠で達成しました。また所属するサントリーは年間チャンピオンに輝いています (前シーズン 9 位)。
 大活躍の中鶴選手にお話を伺いました。

西南学院中学校・高等学校卒業生の 中鶴隆彰選手がラグビー・トップリーグで MVP に！

また所属するサントリーは
全勝優勝でした。

スーパーラグビーに日本から参戦している
ヒト・コミュニケーションズサンウルブズの
メンバーにも選ばれましたね。

スーパーラグビーは世界最高峰のプロリーグで、中学校の頃から見ていた憧れの舞台です。各国で試合するハードなリーグですが、自分の個性であるスピード、クイックネスを生かしてチャレンジしたいです。ヒト・コミュニケーションズ サンウルブズで経験を積み活躍することで日本代表を目指し、ゆくゆくは 2019 年に日本で開催されるワールドカップ出場へ繋げたいと思っています。

ラグビーを始めた時期と西南学院中学校
時代の思い出をお聞かせいただけますか。

ラグビーを始めたのは小学 5 年生の時からです。玄海ジュニアラグビーというクラブチームに所属していました。両親から勧められ、無理やりやらされた感じでしたね (笑)。それから西南学院中学校に入学したのですが、最初はラグビー部がありませんでした。ラグビー経

西南学院高等学校時代
はいかがでしたか？



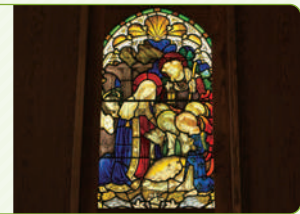
高校時代はとにかくラグビーに熱中していました。努力した甲斐あって高校日本代表にも選ばれました。私はラグビー選手としては身体が大きくなく、何か特別なものを持っていたわけではありません。ラグビーに集中できる環境にあったからこそ、代表にも選ばれたのだと思います。努力する習慣が身に付いたのは、間違いなく高校時代です。

最後に、西南学院で学ぶ後輩への
メッセージをお願いします。

西南学院には、自分が好きなことに打ち込める環境があります。皆さんも、西南学院で興味の幅を広げ、自分が好きなことに夢中になって取り組んでほしい。勉強でも、それ以外でも、探究していけばきっと道は開けます。自分を信じて、頑張ってください。

西南学院中学校・高等学校 チャペル

学院のフィールド
FIELD OF SEINAN GAKUIN



キリスト教教育を象徴する場として

神に愛され、生かされていることに気付く、自分の生き方を考える。
 西南学院中学校・高等学校のチャペルは、学院創立以来、100 年以上にわたって守られてきた礼拝が行われる神聖な場所です。

西南学院中学校・高等学校のチャペルは、礼拝のほか、入学式・卒業式などの行事にも使われています。正面の壁には創立者 C・K・ドージャーの遺訓「西南よ、キリストに忠実なれ」が英文で刻まれています。
 神に愛され、生かされていることに気付く、自分の生き方を考える場であるチャペル。毎週 1 回、中学校は全校生徒が集まり、高等学校では学年ごとにチャペルに集い礼拝を行います。讃美歌を歌い、聖書を読み、祈り、説教を聴くことにより、神の言葉に耳を傾け、自分のおこないを振り返り、生き方を考える大切な時間となっています。

また、年に 2 回、全国各地から牧師をはじめ、文化人、事業家、音楽家、学者などキリスト者として多様な働きをされている方々を講師に迎える特別チャペルであるミッシェンウィークがあります。生徒たちが、講話を通して、聖書に立脚した生き方、働きを紹介する証言にふれつつ、自分のミッション (使命) を考える機会となっています。さらに、12 月に行われるクリスマス礼拝では、生徒・保護者・教職員が共に献金をささげ、さまざまな団体に贈られています。
 西南学院の伝統が息づくチャペルでの時間は、西南学院中学校・高等学校を卒業した者の心にいつまでも残っています。



西南学院からのお知らせ

西南学院に関するさまざまな情報をお届けします。

新図書館、いよいよ開館！

4月1日、西南学院大学の新たな顔として「知の拠点」となる新図書館が開館しました。

7階建てで183万冊を収容可能な新図書館は、1〜3階を「アクティブゾーン」と位置づけ、プレゼンテーションやディスカッションに使用可能なスペースを設けており、新たな活用が期待されます。



施設概要

建築物：地上7階建て(7階：自動書庫)
 延床面積：約11,715.21㎡
 収容能力：183万冊
 開館時間：平日8:30～22:00
 土曜9:00～20:00
 日曜13:00～20:00
 お問い合わせ：西南学院大学 図書情報課
 TEL:092-823-3426
 E-mail:lib-jm@seinan-gu.ac.jp

2017年度西南学院コンサート「バッハとルター」のご案内

2017年度西南学院コンサート「パイプオルガンコンサート」を、下記の通り開催いたします。

本公演では、宗教改革500年を記念したプログラムを東北学院大学教養学部教授、大学オルガニスト、同宗教音楽研究所所長である今井奈緒子氏にご演奏いただきます。

ぜひ、お誘い合わせの上、コンサートをお楽しみください。



日時：2017年6月17日(土)
 開演：14時00分(開場13時30分)
 会場：西南学院大学チャペル
 チケット：一般 前売り1,000円/当日1,500円
 学生500円
 ※未就学児の入場はご遠慮ください
 出演者：今井 奈緒子
 (東北学院大学オルガニスト)

シェイクスピア劇『十二夜』公演のご案内

イギリスの劇団インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドンによるシェイクスピア劇公演が今年も本学にやって来ます。今回はシェイクスピア喜劇の傑作『十二夜』。本場のシェイクスピア劇公演を日本で楽しめる貴重な機会です。ぜひこの機会をお楽しみください。



公演日：2017年5月23日(火)
 開演：18時00分(開場17時30分)
 演目：『十二夜』(英語による公演、日本語字幕つき) 劇団インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン
 会場：西南学院大学チャペル
 主催：西南学院大学
 共催：文学部英文学科
 後援：西日本新聞社
 チケット：一般1,000円、学生500円
 チケット販売：株式会社キャンパスサポート西南、西南学院大学生生活協同組合
 お問い合わせ：西南学院総務部総務課
 TEL:092-823-3201

編集後記

私は、賛美歌が好きだ。高校ラグビー部で試合前に歌っていたのは、「たてよ、いざたて」の歌詞ではじまる讚美歌380番である。中鶴選手のページでも紹介されていた恩師森正和先生が、1988年5月21日、試合に臨む生徒たちに臨戦歌として初めて歌わせたものだ。当時は男子校。しかも、ラグビー部員が試合前に涙して歌う。気持ちで負けたら、ラグビーなんてできない。感情の高ぶりとともに、絶対勝つのだと誓い合う。男だけで歌う賛美歌が、最高にカッコよく、気合が入った。

学院内に取材に行くと、至るところで賛美歌を耳にする。卒業生からのメッセージに登場したお二人も、賛美歌について話してくれた。賛美歌、パイプオルガンの響きが、西南学院での日々を思い出させる。

「たてよ、いざたて」は、初唱和から29年経った。グラウンドから賛美歌が聞こえたら、そっと耳を傾けてほしい。子どもの成長の陰に、賛美歌がある。

101年目を迎えた西南学院。私は、賛美歌が響く西南学院に、心の安心を覚える。

(広報課S・A)

西南学院創立100周年記念募金事業のお礼

1916(大正5)年に、宣教師C.K.ドージャーによって建てられた西南学院は、2016(平成28)年に創立100周年を迎えました。2013(平成25)年7月から今年の3月まで実施しました創立100周年記念募金事業に対しましては、学生・生徒・児童・園児の保証人・保護者様ならびに同窓生の皆様から多大なるご寄付をいただきました。皆様からのご厚志に、心より感謝申し上げます。

募金事業の実施期間である2017(平成29)年3月末までの募金実績額につきましては、集計の都合により後日ご報告をする予定です。

募金実績額 ※2017(平成29)年2月末現在

約9億8,800万円
 (募金目標額 30億円)

寄付者区分

法人 約4億900万円
 365社 約41.4%

その他 約1,400万円 107人 約1.5%
 在校生 父母・保証人 約7,200万円 1,279人 約7.3%
 団体 約9,500万円 191団体 約9.6%
 西南学院理事・教職員等 約1億2,000万円 456人 約12.1%
 同窓生 約2億7,800万円 6,564人 約28.1%

寄付者銘板のご紹介

ご寄付をいただいた個人様、団体様、法人様のご芳名を刻銘した銘板を、2016(平成28)年10月にオープンした西南学院百年館(松緑館)の1階に設置しております。百年館(松緑館)にお越しの際に、ぜひご覧ください。

現時点では、2016(平成28)年3月末までにご寄付いただいた対象者の皆様の掲載しておりますが、2017(平成29)年の秋頃には銘板掲載対象者となる全ての方を掲載し、末永く顕彰させていただきます。

銘板掲載対象：個人5万元以上、団体10万元以上、法人50万元以上のご寄付をいただいた方



創立100周年記念募金の主な対象事業

小学校グラウンドおよび西南の森整備事業

2015(平成27)年9月にグラウンドの整備が完了し、10月のスポーツフェスティバルでは、子どもたちが新しいグラウンドで伸び伸びと演技を披露してくれました。

奨学金基金の創設

学生、生徒、児童、園児の修学を支援するために、創立100周年を記念して奨学金基金を創設します。

中学校・高等学校の教育施設整備事業

授業や部活動、学校行事等で利用するグラウンドは、2005(平成17)年の福岡県西方沖地震の影響もあり、整備改善が急務となっておりますが、2016(平成28)年3月に整備が完了しました。

グローバル人材育成推進事業

大学の学部学生が海外留学できる環境を整備し、世界に貢献できる人材を育成いたします。

大学新図書館の建設



学院と地域を結びつける新たな「大学の顔」であり、知の拠点となる新図書館は、西新の新たなシンボルとなる建物です。新図書館は、地上7階建てで、学生たちの自発的な学修意欲を掻き立てる場となるアクティブゾーンと従来の静かな図書館機能を持ったサイレントゾーンを設けています。また、1階には、どなたでも利用できるライブラリーカフェがあります。

百年館(松緑館)の建設



西南学院百年館(松緑館)は、2016(平成28)年10月にオープンしました。館内には、学会、講演会や懇親会などに利用できる多目的ホールや授業、会議、打ち合わせなどに利用できるセミナー室、会議室、ミーティングルームがあります。また、これまでの学院の歴史などを紹介する西南学院史資料センターを設置しています。1Fのカフェでは、パンやコーヒーなども販売していますので、お気軽にお立ち寄りください。

募金事業に関するお問い合わせ先

西南学院 校友課 TEL:092-707-0452 FAX:092-707-0453 E-mail:koyu@seinan-gu.ac.jp